

二〇〇四年、長崎市の中心部に「長崎水辺の森公園」

が誕生した。それまで倉庫群に阻まれていた風景は一変し、古くから「鶴の港」と讃えられた美しい港姿を現した。

広々とした緑豊かな公園には、周辺の山々から湧き出た水を利用した遊び場や、海風を感じる散策コース、種をモチーフにした石のベンチや、いくつもの橋が配され、変化に富みながらも、周囲の景観と調和したデザインが印象的だ。公園のそばには美術館や商業施設が立ち並び、近郊の出島和蘭商館跡を含め、公園の周辺一帯が水辺のエリアとして、市民に親しまれている。加えて、近年では大型客船を目にすることも多く、「港町・長崎」を実感する機会も増えた。

公園には、いつも人々の姿がある。犬の散歩をする人、木陰で本を読む人、家族とお弁当を広げている人……。皆がそれぞれにくつろいでいる。季節ごとに開催されるイベント時には多くの人が集い、賑わいを見せる。公園が誕生してから、まちの風景だけでなく、市民の暮らしは変わった。

良いデザインは、「かっこいい」だけでなく豊かな暮らしをもたらす。今回出会ったデザインに携わる人たちは、自身の仕事を楽しみながら、いつも誰かの幸福を願っていた。その思いがアイデアを生み、色や形、空間となって、私たちのもとへ届けられている。

デザインは奥が深い。そして長崎のデザインは、やっぱり面白い。

長崎水辺の森公園

美しい公園はまちを変え、
人々の暮らしを変えた。

Nagasaki Seaside Park

